

現代語における並列助詞「たり」の一用法

―〈同類要素非含意用法〉をめぐって―

京 健治

岡山大学

1. はじめに

現代語の並列助詞「たり」の意味用法について、富田隆行『文法の基礎知識とその教え方』128～130頁)では、その用法を以下の六つに分類している。(なお、引用に際して、用例の中からそのいくつかを示しておく。)

- ①対立する動詞を使って、動作や状態の繰り返しを表します。
 - ・子供がテレビをつけたり消したりしています。
 - ・大勢の人が電車に乗ったり降ったりしています。
- ②二・三の具体例を示すことによって、ある一つの行動パターンを表します。
 - ・夏休みには、海へ行ったり山へ行ったりしました。
(夏休みにいろいろな所へ遊びに行ったことを表します。)
 - ・昨日は、寝たり起きたりしていました。
(体の具合が悪かったことを表します。)
- ③動作の肯定形と否定形を挙げて、そのことを「あまりしていない」とか「きちんとしていない」というような意味を表します。
 - ・(留学している子供から) このごろは、手紙が来たり来なかったりです。
 - ・お医者さんから薬をもらっても、のんだりのまなかったりでは、病気が治りませんよ。
- ④対立する形容詞を使って「AたりB तरीです」の形で、「あるものはAで、あるものはBである」「あるときはAで、あるときはBである」ということを表します。
 - ・広かったり狭かったりで、なかなか適当な家が見つかりません。
 - ・主人の帰りは早かったり遅かったりです。
- ⑤同時に行われている幾つかの動作・行動を表します。
 - ・子供たちが公園で、ぶらんこに乗ったり、滑り台で滑ったりしています。
 - ・大勢の人が川でボートに乗ったり、魚釣りをしたり、水遊びをしたりしています。
- ⑥一つのことを挙げて、他の同類のことを表します。
 - ・会場を走ったりしてはいけません。
(「走る」ということで、「走る」ことだけではなく、会場で騒ぐことを表してい

ます。)

・壊したりしたら大変だ。

(「壊す」ということで、「壊す」ことだけではなく、その物を傷つけるということを表しています。)

上記⑥に示されているように、「たり」には「一つのことを挙げて、他の同類のことを表す」用法があるが、(1)の「たり」はそういう「他の同類のこと」を含意しているとは考えにくいように思われる。

- (1) a このお店には合計5回ほど来ているが、やっぱりかなり特別感のあるお店です。僕がケーキに強い魅力を感じるようになったのはこのお店のケーキを食べてからのことなのです。すごくたくさん食べ歩いたわけではないが、やっぱりどこにも替え難い一番好きなお店です。ちなみに今まで食べてきたすべてのケーキの中で一番記憶に残っているのはこのお店の「ノワゼット・ムスタファ」だったりする。あれ、めちゃくちゃうまいと思う。(http://tabe-aruki.seesaa.net/article/181196417.html)
- b ところで、個人的に一番欲しいのは斑鳩のサントラだったりする。ゲーム音楽史上、オープニングからエンディングまでが1つの交響詩のように完成されたBGMは、このゲームが最初で最後のように感じます。特に1面～3面の完成度は圧巻。
(http://bari5.net/?eid=2224)

(1) aは「一番記憶に残っているのは～」であるから、ここに「含意」を見る必要はなさそうに思われる。(1) bも同様に「個人的に一番欲しいのは～」とあるように、ここに「含意」を想定することは難しいように思う。現代語の並列助詞「たり」の〈一例提示用法〉は、具体的に示された事柄以外のものを含意するとされるが、このように〈含意〉を想定しにくい使用例も見られる。以下、本稿では、上記のような「他の同類」の存在がくみ取れない用法を〈同類要素非含意用法〉と呼ぶことにする。

上記の「たり」に於ける〈同類要素非含意用法〉が如何なる経緯によって発生したのか、また、その意義など考えるべき点が多々あるように思われる。そこで、本稿では当該語法を取り上げ、〈同類要素非含意用法〉の派生のプロセスを中心に考察することにする。後述するように、一口に〈同類要素非含意用法〉とはいっても、表現性の面に於いて、いくつかに分類できそうに思われる。まずは〈同類要素非含意用法〉の様相を確認し、それを承けて、当該用法の発生の経緯について言及しようと思う。

2. 〈同類要素非含意用法〉の「たり」

同類要素非含意用法とは、「たり」が使用されるにもかかわらず、〈含意〉されるものが

想定しにくいものであるが、当該語法について、「述べられるところの事柄の性格」(上段)と文脈展開機能(下段)との観点から、次の4つに分類できそうに思う。

(2) 分類①:〈意外性を伴う事態を提示するもの〉

〈展開型〉

分類②:〈意外性を伴う事態を提示するもの〉

〈転換型=それまでの話の流れを承けつつ、話題を転換するもの〉

分類③:〈意外性を伴うとは思われない事態を提示するもの〉

〈補足説明型=それまでの話題を承け、補足的な情報を提示するもの〉

分類④:〈意外性を伴うとは思われない事態を提示するもの〉

〈展開型〉

上記の4分類について、それぞれの意味用法上の特徴を確認することにしよう。

まず、分類① [= 〈意外性を伴う事態を提示するもの〉 / 〈展開型〉] から見ていくことにしよう。

(3) a 有川浩さんの「空の中」を読みました。／「くじらの彼」の中に出てくる最後の若い夫婦のお話の／主人公だった。／春名高巳と武田光希三佐が出会うきっかけになったある事件／のお話でした。／／くじらの彼を先に呼んでいたの、これもまた甘々な恋愛小説／なのかと思いながら読んでいましたが、／最初から物騒な飛行機事故から始まったので・・・／／あれれ・・・。と思っていたんです。／でもそのあとに、急に場面が変わって海で少年が／くらげのような物体を拾って……。／??? と思っていたら、／なんとSFファンタジーものだったんですね。／／でもすごく面白かったです。／／武田がその上司とともに訓練飛行を高度2万メートルで／行っていたときに、起きた爆発事故が／この少年の拾ったくらげとリンクするって言うか……。／／この少年っていうのが実は、武田の上司の息子さん／だったりするんですね。／少年は海で拾ったくらげのような物体を親を失った悲しみから／逃れるように可愛がるんだけど・・・。／／このくらげのような物体がなんなのか？ がわかってくと／少年は本当につらい思いをすることになるんですね。

(<http://yaplog.jp/kakurecyaya/archive/3101>)

[ブログ等からの引用に際し、1行改行の場合、スラッシュ1つ(/)、2行改行の場合はスラッシュ2つ(//)のように表記する。以下、同じ。]

b 竹中直人の主演映画。／奥田民生が音楽の監修をしているようです。／稲垣潤一がドラマーの役で出演していただきます。／／病院で竹中が偶然、医師達が「癌で手遅れ」／と言っていたのを聞いてしまい、死ぬ前に／高校時代のバンドを再結成し、コンテストへの／出場を目指す!といった設定。／／勿論、竹中の病気は勘違

いで、末期癌なのは宅麻伸だったりするのですが(ネタバレ)／／それなりに楽しめる作品でした。(http://kimamajim.blog43.fc2.com/blog-entry-2385.html)

(3) a「この少年っていうのが実は、武田の上司の息子さんだったりするんですね。」では、「この少年」が「武田の上司の息子」であると述べており、それ以外の事柄を想定することはできそうにない。また、(3) b「末期癌なのは宅麻伸だたりするのですが」の場合も同様に、末期癌であるのが「宅麻伸」であり、それ以外の人物の想定はできないように思われる。いずれも〈同類要素非含意用法〉であるが、ここで、「たり」文で述べられる内容を見てみると、(3) aでの「実は」、(3) bでの「ネタバレ」の文言から察するに、「たり」文で述べられる内容としては、〈意外性〉を伴う事柄であるように思われる。なお、ここでの〈意外性〉とは、発話者にとって意外な事態という意味ではなく、他者にとっては意外な事態であろうと発話者(この場合、書き手)が想定したものという意味と規定しておくことにする。

次に分類② [= 〈意外性を伴う事態を提示するもの〉／〈転換型=それまでの話の流れを承けつつ、話題を転換するもの〉]を見ていく。

(4) a『D r. 伊良部一郎』なんですけど。／／役に立ってるんだかそうでもないんだか、毎回わからない…。／でも、解決できてるんだからいいのかな…。／／でも、今シーズンのドラマで一番ハマってるのは、実は『デカワンコ』だたりするんだけどね【絵文字(略)】／BGMも微妙にツボにはまっています…これってやっぱり歳がばれるってことかしら???

(http://blog.goo.ne.jp/riverparade/e/82ce36dfab2c6627cd54dala832c531c)

b ところで、個人的に一番欲しいのは斑鳩のサントラだたりする。

(http://bari5.net/?eid=2224) [(1) b再掲]

分類②は〈意外性を伴う事態を提示するもの〉、〈転換型=それまでの話の流れを承けつつ、話題を転換するもの〉としたものである。(4) a「でも」、(4) b「ところで」の使用からもうかがわれるように、「たり」文以前での話題とは異なったものを提示している。

分類②での「たり」文の内容に関しては、分類①とは異なり、それ自体〈意外性〉を伴うものではないように思う。ただし、注意すべきは(4) aを例に取ると、「たり」文以前では、『D r. 伊良部一郎』のことを話題にしており、それに興味関心があるかと思いきや『デカワンコ』が一番であるというように、話の展開からすれば、読み手にとっては〈意外な内容〉とでもいうべき性格のものが提示されているように思う。

分類③ [= 〈意外性を伴うとは思われないもの〉／〈補足説明型=それまでの話題を承け、補足的な情報を提示するもの〉]を見てみよう。

- (5) a はい、大洗に行って来ました。／アニメ「ガールズ&パンツァー」の聖地ですね。／／ちなみに、私が聖地巡礼自体を行ったのは今回が初めてだったり。／／というわけで大洗の観光についてのブロマガを書いていこうと思います。

(<http://ch.nicovideo.jp/passerd/blomaga/ar119145>)

- b ちなみに、これが今日の昼飯を兼ねた朝食だったり。DP1mで撮影しているわけですが、ホワイトバランスはオート。うん。普通に使える♪

(<http://twitpic.com/b99ymm>)

- c 【Tシャツのロゴ「ミツクリエナガチョウチンアンコウ娘」の解説…京注】ちなみに魚類で一番長い和名だったりします。

(<http://item.rakuten.co.jp/kamikazestyle/2012ss-20/>)

(5) は「ちなみに」という「前に述べた事柄に、あとから簡単な補足などを付け加えるときに用いる」接続詞が使用されているものである。このような補足的に説明を加えるという用法もある。なお、「たり」文の内容については、3例いずれも、特段〈意外性〉を伴う事態が提示されているとは思われないものである。

最後に、分類④ [= 〈意外性を伴うとは思われないもの〉／〈展開型〉] を見てみよう。

- (6) a わしは山口県外でのトレッキングを計画するときは せっかく遠出をするのであれば出来る限り「温泉」と「キャンプ」の要素を組み合わせたいと思っているんだが、今回の鶴見岳トレッキングでチョイスしたのは当然の如く別府の「志高湖キャンプ場」だったりする。／／県外のベースキャンプ候補地がまだまだ少ないということもあるし、ここは過去に利用して印象が良かった、ということもモチロンなんだが それ以前に志高湖の入り口は鶴見岳登山道入り口の対面に位置しているからな・・・

(http://pub.ne.jp/oudoiro/?entry_id=4909626)

- b まりんのブログだったりする。【オンライン小説サイト名…京注】

(<http://marin0113.blog.fc2.com/>)

分類②・分類③では、前者が話題を転換する場合に使用され、後者は補足説明を施す場合に使用されており、両者とも前文脈との関わりが観察されるが、分類④はそうした前文脈との関わりが弱いように思う。そういう意味に於いては先の分類①と同様ではあるが、分類①では、「たり」文で提示される事柄そのものが、何らかの〈意外性〉を伴う事態が提示されているのに対して、分類④の場合、(6) a・bに見るように、〈意外性〉を伴うとは思われない事態が提示されるものであり、分類①とは区別しておくのが穏当であろう。

以上、〈同類要素非含意用法〉と捉えられるものには、意味用法の面から4つのパターンが見られることを確認した。

そこで以下、これら分類①から分類④について、それぞれの関係などを考えてみるこ

にするが、検討するにあたって、分類①（及び分類②）が有するところの〈意外性〉という表現性に着目してみたい。〈同類要素非含意用法〉の発生経緯を考えるにあたっては、こうした表現性が如何にしてもたらされたのかを考えることに手がかりが得られそうに思われるからである。

3. 仮想的事態提示形式「たりして」

並列助詞「たり」には「動作や状態を並列して述べる用法（泣いたり笑ったりする）」、「ある動作・状態を例示し、他の場合を類推させる用法（枝を折ったりしてはいけない）」があるが、森山卓郎氏は、現代語の「たり」に於いて、「たりして」の形を取ったものが、「冗談用法」—極端な異常事態を例示・想定する用法—として使用されることを指摘する^{註11}。ここでいう「冗談用法」とは、(7) a「うどんにマヨネーズをかけたりして」、(7) b「案外自分で一生懸命流したりして」、「男装して自分のアパートに入るところを友達にフォーカスしてもらったりして」のように、通常では「ありそうもない事態」を想定し、それを「～たりして」の形で提示する用法のことである。

- (7) a [うどんを食べるときに、テーブルの上にマヨネーズがあるのを見て、冗談で、]
 うどんにマヨネーズをかけたりして。 【森山 (1995) による 注2】
- b (浮ついた噂を) 案外自分で一生懸命流したりして。男装して自分のアパートに入
 るところを友達にフォーカスしてもらったりして
 (萩野アンナ『背負い水』) 【森山 (1997) による 注3】

冗談用法とは極端な異常事態〔P〕を想定し、それを「Pたりして。」という形式で表すものである。なお、この「たりして」について、拙稿でも考察を加え、上記の用法を〈仮想的事態提示形式〉と呼んでいた^{注4)}。以下に、そうした例をいくつか示しておく。

- (8) a 次男の俳優篠山輝信 (25) と南海キャンディーズのしずちゃんこと山崎静代 (30) のロマンスが報じられたばかりの篠山は「しずちゃんのことはいいの？僕は分からない。(次男とは) 別人格だから」と自ら切り出した。「次は、しずちゃんがモデルですか」と聞かれると「いいですよ。でも、息子に『許せん』と刺されたりして (笑い)。
(<http://www.nikkansports.com/entertainment/news/f-et-tp0-20090807-528112.html>)
- b そっかそっか。カッチちゃんはいきさつ知らないんだった。南は原田くんに南風で頼まれごとをされたタツ／ちゃんが、とぼっちりを受けた顛末を教えてあげた。／「じゃ、この間のラブレターの？」／タツちゃんも意外に勘が良い。／「そ、あれは不良たちが原田くんを呼び出すためだったけど、もしかしたら嘘から出た真実(ま

こと)だっ／たりして」

(http://blogs.yahoo.co.jp/birst_head)

c ガラガラの新名神に乗り、1時間ちょっとで『なばなの里』に到着。／／駐車場はわりと混雑。／／まさかディズニーばりのコミコミだったりして？

(<http://4travel.jp/domestic/area/toukai/mie/yokkaichi/kuwana/travelogue/10674510/>)

「Pたりして。」で想定されるところの事態は、「もしかしたら」「まさか」等の語との共起からうかがわれるように、その可能性が非常に低いものであらうと考えられる。

以上、「Pたりして。」は、

・〈ある事態を仮想し、それを提示するものであること〉

・〈提示されるところの事態は、その実現の可能性が非常に低いものであること〉

という特徴を有しているが、こうした「たり」の使い方は本稿で対象としている〈同類要素非含意用法〉のうち、分類①・分類②に特徴的な意外性を伴う事態の提示という性格を考える上での手がかりになりそうに思う。さらに、この「Pたりして。」に於いて、(9)に示すように、個別の事柄を仮想するものも見られる。

(9) a 葉加瀬太郎さんのコンサートのあと、家に帰る途中。／近所の劇場の脇に大勢の人がたむろして、歓声が上がっていました。／／その劇場は最近 Oliver! という公演が始まったところ。／【中略】／「まさか、ミスター・ビーンだったりして!?!」／と笑いながら横を見ると、旦那さんがいない?／あれれれ???／／あたりを見回すと、今まで一度も見たことのない素早い動きで、人ごみの中に駆けて行きました。／・・・ホンモノだ!!!

(http://woman.excite.co.jp/blog/sanpo/sid_299776/)

b エレベーターホールの壁には、こんな写真(↓)【写真略…京注】が飾られているのだが…／成龍(ジャッキー・チェン)、李安(アン・リー)監督、馬友友(ヨーヨー・マ)、ホセ・カレーラス、／レディ・ガガ、イル・ディーヴォ、ジェラルド・パルデュー等々…。日本からは安藤忠雄も。／何これ? このホテルを訪れた著名人ってこと? スパイダーマンも居るんだけど(笑)。／着ぐるみの中、中村獅童だったりして。

(<http://blogs.yahoo.co.jp/sweetmango727/53580537.html>)

(9) a 「まさか、ミスター・ビーンだったりして!?!」は、人がたむろして、歓声が上がっている状況に接して、「ミスター・ビーン」がよもやいるまいと思いつつも、ひょっとしたらいるのかもしれないと「ありそうもない事態」を仮想しているものである。(9) b も同様に、着ぐるみを着ているのはもしかしたら、「中村獅童」ではないかと想像しているのである。これらの「Pたりして。」で提示されるところの事態の性格(=ありそうもない事態)は、分類①(及び分類②)に観察されるところの〈意外性〉を伴う事柄を提示することとの関連のみならず、個別の事態が想定されているという点に於いて興味深いように思う。すなわち、(9) a では、「ミスター・ビーン」が居ること、(9) b では着ぐるみを

着ているのが「中村獅童」であることが想定されているに過ぎず、他の可能性を想定したものではない。

なお、仮想的事態提示形式には「Pたりする？」での疑問形式も見られる((10))。おそらく「Pたりする？」は先の「Pたりして。」からの派生であろう。(10)での「Pたりする？」でも、述べられるところの事柄が意外性を有するものであり、且つ、他の要素の存在がくみ取れないものである。

(10) a 新潮文庫の恩返し = Yonda? CLUB だったりする?

(<http://www.excite.co.jp/News/bit/E1234145430071.html>)

b 【「夜行観覧車」の犯人は誰ですか?」の記事に対するコメント…京注】

早く続きが見たいのに金曜日、家にいないんだよな～犯人はまさかの警察だたりする?

(<http://yakoukanransya-drama.blog.so-net.ne.jp/2013-01-22-2>)

4. 同類要素非含意用法の展開

第3節に於いて、「たり」の用法中、「Pたりして」「Pたりする?」の形を取り、ありそうもない事態を仮想し、それを提示する用法が存することを見た。そこで、本節では第2節に示したところの分類①から分類④について、それぞれの関係を考えてみることにしよう。分類①から分類④の例を以下に改めて示すことにする。

(11) a 竹中直人の主演映画。／奥田民生が音楽の監修をしています。／稲垣潤一がドラマの役で出演していたりします。／／病院で竹中が偶然、医師達が「癌で手遅れ」／と言っていたのを聞いてしまい、死ぬ前に／高校時代のバンドを再結成し、コンテストへの／出場を目指す!といった設定。／／勿論、竹中の病気は勘違いで、末期癌なのは宅麻伸だたりするのですが(ネタバレ)／／それなりに楽しめる作品でした。

(<http://kimamajim.blog43.fc2.com/blog-entry-2385.html>)

[分類①]

b 『Dr. 伊良部一郎』なんですけど。／／役に立ってるんだかそうでもないんだか、毎回わからない…。／でも、解決できてるんだからいいのかな…。／／でも、今シーズンのドラマで一番ハマってるのは、実は『デカワンコ』だたりするんだけどね【絵文字(略)】

(<http://blog.goo.ne.jp/riverparade/e/82ce36dfab2c6627cd54dala832c531c>)

[分類②]

c はい、大洗に行って来ました。／アニメ「ガールズ&パンツァー」の聖地ですね。／／ちなみに、私が聖地巡礼自体を行ったのは今回が初めてだたり。／／というわけで大洗の観光についてのブロマガを書いていこうと思います。

(<http://ch.nicovideo.jp/passerd/blomaga/ar119145>)

[分類③]

d わしは山口県外でのトレッキングを計画するときは せっかく遠出をするのであれば出来る限り「温泉」と「キャンプ」の要素を組み合わせで考えたいと思っているんだが、今回の鶴見岳トレッキングでチョイスしたのは当然の如く別府の「志高湖キャンプ場」だったりする。 (http://pub.ne.jp/oudoiro/?entry_id=4909626)

[分類④]

| | 事態の性格 | 文脈展開 |
|------------------|-------------------------|-------|
| 分類① 用例 (11) a | 意外性を伴う | 展開型 |
| 分類② 用例 (11) b | 意外性を伴う (ただし、文脈に依存する) | 話題転換型 |
| 分類③ 用例 (11) c | 意外性を伴わない | 補足説明型 |
| 分類④ 用例 (11) d | 意外性を伴わない | 展開型 |

〈同類要素非含意用法〉は、提示された事柄の性格及び前文脈との関係から、〈表 1〉に示した 4 つに分類したのであるが、これら 4 分類について、まず大きく、〈意外性〉を伴う事柄が提示するもの (=分類①・分類②) と 〈意外性〉を伴わない事柄を提示するもの (=分類③・分類④) とに 2 分される。両者の先後関係を察するに、何らかの色調を帯びた表現形式が先行するものと思われる。すなわち、〈同類要素非含意用法〉は、分類① (=意外性表出用法) から行われ始め、以下、[分類②] → [分類③] → [分類④] の順に行われるようになったものであろうと推定したい。

分類①は受信者にとって、意外なものであると、発信者が考える事柄を提示するものであるが、こうした意外性を有する事柄を提示するものに、先述の「P たりして。」「P たりする？」の使用が認められる。〈意外性表出〉という性格の経緯を考える上で注意されるように思う。以下、順に分類②から分類④の関係を考えてみたい。先述の如く、分類②としたものは〈意外性を伴うもの／話題転換型〉であり、分類③は〈意外性を伴わないもの／補足説明型〉である。分類②が〈それまでの内容とは異なる話題に転ずるような文脈で使用されるもの〉であるのに対して、分類③としたものは〈それまでの内容を承けた形で、補足となる事柄が提示されているもの〉である。分類②の場合は、述べられる内容そのも

のが何らかの点に於いて、意外性を伴う性格を有する一前文脈との関係に於いて一のに対して、分類③では、意外性表出というニュアンスは弱い。意外性表出という点からすると、分類①を経て分類②、さらに分類③が行われたとみるのがよさそうに思われる。

分類②から分類③への移行に際し、〈意外性〉の有無が問題となる。分類①の場合、述べられる内容そのものが意外性を伴う性格が強いものであるのに対し、分類②は、それまでの話題を別のものに切り替えることにより、〈意外感〉が醸し出されるという違いがある(なお、分類①・分類②ともに、何らかの新たな情報の提示という点に於いては共通している)。分類②に於いて注意すべきは事柄の内容自体が意外性を伴うものではないものが提示されていることにある。すなわち、分類②に於ける〈意外性〉は文脈との関わりに拠るものであり、〈意外性表出〉の働きが文脈展開のほうへとシフトしていると捉えることができよう。分類③及び分類④のような〈意外性〉を伴わない事態が述べられるに至ったのは、分類②を契機としたものであろう。前文(前文脈)を承けた形で述べられるという点で近い関係にある分類②から分類③へ、さらに、文脈に依存しない分類④が行われるに至ったのではなかろうか。

5. 〈同類要素非含意用法〉の意味機能

以上の考察は、あくまでも同類要素非含意用法の4分類に関して、それぞれの派生関係を見たに過ぎず、その性格一特に分類③及び分類④—については、なお検討の余地がある。ここでは、分類③・分類④の機能について考察を加えてみようと思う。

先述の如く、分類①・分類②に於いては、何らかの意外性を伴う事柄が提示されていると見てよさそうに思うが、分類③・④に於いてはそうした〈意外性表出〉という性格は見出し難い。分類③・分類④に於いて、提示される事柄が、意外性を伴うものでないとする、表現内容という点からすれば、「だ」「である」等の判定詞を使用した表現と大差ないようにも思う。(12)(13)を参照されたい。(12) aは分類③としたもの、(13) aは分類④としたものである。

(12) a ちなみに今まで食べてきたすべてのケーキの中で一番記憶に残っているのはこのお店の「ノワゼット・ムスタファ」だったりする。あれ、めちゃくちゃうまいと思う。 [再掲]

b 今まで食べてきたすべてのケーキの中で一番記憶に残っているのはこのお店の「ノワゼット・ムスタファ」だ／である。

(13) a わしは山口県外でのトレッキングを計画するときは せつかく遠出をするんであれば出来る限り「温泉」と「キャンプ」の要素を組み合わせたいと思っているんだが、今回の鶴見岳トレッキングでチョイスしたのは当然の如く別府の「志高湖キャンプ場」だったりする。 [再掲]

b わしは山口県外でのトレッキングを計画するときはせつかく遠出をするのであれば出来る限り「温泉」と「キャンプ」の要素を組み合わせて考えたいと思っているんだが、今回の鶴見岳トレッキングでチョイスしたのは当然の如く別府の「志高湖キャンプ場」である。

分類③・分類④の〈意外性〉を有するとは思われない用法に関して、その表現性が問題である。以下、この点について考えてみようと思う。

分類①・分類②の特徴として、〈意外性表出〉という働きがあるのではないかと考えたが、これらは、受信者にとって、意外な事柄であろうと想定した事柄を新たな情報として提示するものであるように思う。そうした情報提示の働きに特化したのが、分類③・分類④ではなかろうか。(12) b・(13) bのような「だ」「である」等の判定詞を使用した表現の場合、発話者の事態認識・判断という色合いが強く打ち出されることになる。そういうニュアンスを抑え、単に〈ことがら〉を提示するものとしての働きを有しているのではなかろうか。例えば、(12) aでは、この店で一番記憶に残っているものとして「ノワゼット・ムスタファ」であることが示されているが、「ノワゼット・ムスタファ」が、この店で最も代表的なものであるか否かの当否一人によっては別のものもあり得る—は問わず、発話者自身の判断内容を、情報として提示するに留まる。また、(13) aでも、「温泉」と「キャンプ」との組み合わせという条件に合致するものとして選択したのが、〈別府の「志高湖キャンプ場」〉であることが示されているが、これも候補としては「志高湖キャンプ場」以外もあるかも知れないが、発話者としては「志高湖キャンプ場」を選択した—その判断の是非等には触れず—という情報提示という意味合いで使用されているのではないかと思われる。

6. おわりに

本稿では、現代語の「たり」に見られるところの〈同類要素非含意用法〉について、しばかり考察を加えてみた。現代語の並列助詞「たり」を見るに、ここで取り上げた〈同類要素非含意用法〉及び、その考察の手がかりとした仮想的事態提示形式の「Pたりして。」等、「たり」の基本的な機能であるところの並列用法から外れたような用法も行われるようになっており、意味用法の拡張という点で興味深いように思う^{注5}。本稿は、そうした観点から、〈同類要素非含意用法〉を取り上げ、その表現性及び文脈展開機能に着目し、用法拡張のプロセスを考えてみようとしたものである。考察が不十分な点が多々あると思う。残された課題等については機会を改めて考えてみようと思う。

[注]

- (1) 森山卓郎「うどんにマヨネーズかけたりして」—並立の意味(『月刊言語』第26巻第2号／1997年／大修館書店)

- (2) 森山氏注 1 論文。
- (3) 森山卓郎「並列述語構文考—『たり』『とか』『か』『なり』の意味用法をめぐって—」(仁田義雄編『複文の研究』上／1995 年／くろしお出版)
- (4) 拙稿「現代語に於ける並列助詞「たり」の一用法—仮想的事態提示形式「たりして」—」(『文献探究』第 51 号 (2013 年 3 月))
- (5) 『三省堂国語辞典』(第 6 版)に於いて、「だったり(であったり)」を見出しに立てている。「だったり」を連語扱いとする経緯について、『三省堂国語辞典』編集に携わっている飯間浩明氏に『三省堂国語辞典のすすめ 16』「「だったり」って言ったりする？」(<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/wp/2008/05/21/>)と題したコラムがある。なお、拙稿「現代語に於ける並列助詞「たり」の一用法—連語「だったり」をめぐって—」(『岡大國文論稿』第 41 号 (2013 年 3 月))にて、連語「だったり」を取り上げ、考察を加えた。

[付記]

本プロジェクト研究に参加し、並列表現の史的展開—特に現代語の並列助詞「たり」の展開—に関して研究成果を提示する機会を得た。拙稿「現代語に於ける並列助詞「たり」の一用法—仮想的事態提示形式「たりして」—」(『文献探究』第 51 号 (2013 年 3 月))及び「現代語に於ける並列助詞「たり」の一用法—連語「だったり」をめぐって—」(『岡大國文論稿』第 41 号 (2013 年 3 月))は、本プロジェクト研究に於ける研究発表をもとに加筆修正を加えたものである。本稿はそうしたプロジェクト研究での研究成果を踏まえたものである。なお、平成 25 年度九州大学国語国文学会 (2013 年 6 月 8 日／於九州大学) 及び第 328 回岡山国語談話会 (2013 年 8 月 3 日／於岡山大学) での口頭発表に基づくものであることを書き添えておく。